

第3学年1組 社会科 授業案

授業者 鈴木 良太

1 単元 富士見探検隊 ～火事から富士見を守りたい！～

2 本学年で育成したい社会科における思考力

- ・資料から必要な情報を読み取り，社会的事象の特色や相互の関連・意味について考える力

3 単元目標

(1)地域の安全を守る関係機関の活動が，地域と協力して人々の安全を守っていることを理解するとともに，調査活動や具体的資料を通して必要な情報を調べ，まとめることができる。【知識・技能】

(2)地域の安全を守る関係機関の活動の様子にふれたり，協力の仕方について調べたりする活動を通して，火事から人々の安全を守るための工夫や努力について考えることができる。

【思考力・判断力・表現力】

(3)富士見校区を守るさまざまな取り組みについて関心をもち，学習問題の解決に向けて意欲的に追究するとともに，地域への愛着や地域社会の一員としての自覚を養うことができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

4 本単元の系統性

小学4年	小学6年	中学 公民的分野
自然災害から人々を守る活動	我が国の政治の働き	私たちと政治

5 単元構想 ～子どもの学びをとらえ，見通す～

(1)子どもをとらえる

本学級の児童は，新たに始まった社会科の学習に意欲的に取り組む子が多い。「わたしのまち みんなのまち」の学習では，校区探検に出かけて郵便局や神社を見つけると，「ここに何回か来たことあるよ」「お正月のときには，家族でお参りにくるんだ」など，日常の生活でのできごとを思い浮かべながら，とてもうれしそうに話していた。また，校区探検から戻ると，交差点の数から建物の位置を見つけて白地図に表したり，「建物は多いから目立つ赤」「畑は葉っぱの緑がいい」などと話しながら色分けをしたりと，積極的に地図の作成に取り組んだ。さらに，完成した地図を見ることで，校区の中には公園が多く点在していることや，住宅が密集している場所であることに気づき，自分が発見したことをいきいきと発表する児童もいた。

校区に対する関心を調べるアンケートを7月に行った際，児童全員が「富士見校区が好き」と答えた。しかし，「富士見校区のどんなところが好きですか」のように，自分が好きと感じる根拠を答える項目では，具体的な物事を挙げて記述した児童はほとんどいなかった。このことから，児童たちは校区の中で生活しているものの，社会的な物事に対して主体的に関わる経験が少ないと感じた。

そこで，社会科の学習の楽しさを味わい，積極的に学習しようとし始めた児童たちに，自分とのつながりを感じられる社会事象と出会い，関わる経験を重ねることで，さまざまな社会事象の本質を理解したり，地域のよさを具体的に表現したりできるようになってほしいと考えた。

(2)学びをとらえる

足を運んで富士見校区を探検しながら新たな発見をする活動を繰り返すうちに，「ぼくたち，富士見の探検隊だね」という言葉が挙がった。その児童の言葉に多くの児童が賛同したため，社会科の授業では「富士見探検隊」を合い言葉に学習をすすめることとなった。本単元でも，その言葉を単元名として引き続き使用していく。

本単元は，火災から人々の安全を守るための関係機関として，大清水出張所と富士見校区の消防団の2つを取り上げる。

大清水出張所は，富士見校区から最も近い出張所であり，消防車や救急車が待機するだけでなく，訓練所や仮眠室など消防士にとって欠かせない設備も整っている。また，待機するすべての消防士が，いついかなるときも火災や救急などの現場に対応できるように備えている。3年生になるまでに社会事象と関わる経験が少なかった児童でも，大清水出張所を見学することで，消防士の活動や協力の様子，消防署の仕組みなどを目の当たりにすることで意欲的をもって追究を続け，消防の仕

組みについて理解することができると思う。

一方、富士見校区の消防団は、毎月一回校区のパトロールをしたり、休日の夜に放水訓練を行ったりして、校区の安全維持に努めている。また、火事や台風などの際には、詰所や現場に出動し、現場対応に当たることもある。そのため、富士見校区消防団について学習することは、学んだことと自分たちの生活が関連しているということ結びつけやすい。また、地域のスポーツクラブにコーチとして携わっている山口さんが富士見校区の消防団の団長を務めていることから、校区の安全対策に日々取り組む人々の思いにも寄り添う学習を展開することができる。さらに、「安全を守る」という共通の使命を担いながらも、それぞれの役割をもって活躍する消防士や消防団のかたと出会い学びを深めることは、「校区の安全」という事象についてさまざまな人の立場から考えさせることができるため、物事の多面性を学ぶことにも本単元は適していると思う。

(3) 学びを見通す

そこで、本単元の導入では、9月に行った避難訓練の様子を思い返すことをきっかけにして、火事の発生について児童たちに関心をもたせる。火が身の回りに燃え広がるまでの時間「5分」を提示することで、児童たちは火災への備えについて意識を高めることができると思った。そうした意識の高まりから、富士見小学校や富士見校区の「消火」設備探しを行う。この活動を行うことで、自分たちが暮らす富士見校区が多くの消火設備によって守られていることに気づかせる。また、消火設備探しの過程で生じた消火道具や消防車などへの疑問については、一人調べや話し合いによって解決していく。そして、その道具を「使う人」や「使う時」について考えさせることで、消防士や消防署の存在に着目することができるだろう。

大清水出張所では、消防士の活動の様子や消防署の施設見学を通して、地域の安全を守る人たちの工夫や願いについて考え、消防士の取り組みによって安全に生活することができることに気づかせたい。また、富士見校区への出動が遅れてしまう可能性があることを話していただくことで、問題を自分事として考えられるようにするとともに、児童たちに身近な場所の安全を守る富士見校区の消防団に目を向けていく。消防団の活動見学では、日頃の活動の内容を知ったり、放水訓練の様子を実際に見たりする。見学を通して、自分たちの知らないところでも安全が守られていたことや、安全を守るためには継続的な取り組みが必要不可欠であることに気づかせていきたい。

単元の終盤には、富士見校区の消防団活動を14年間も続けている山口さんの考え方を取り上げ、自己犠牲を図りながらも地域を守り続けてきた山口さんの願いにせまる。話し合い、思考を深めるなかで、消防署と消防団の両方があることで自分たちの安全が守られることや、校区の安全を真剣に願って活動する山口さんの思いに気づかせたい。また、懸命に地域のことを考えて活動して下さる人々がいることや、そうした人々の努力のうえに火事に強いまちとしての富士見校区があるという、校区への誇りや愛着をもたせたい。さらに、児童たちの思いの高まりから、校区や校区を大切に思う人々のために自分たちにできることを考え実践することで、社会事象にすすんで関わっていく面白さや達成感を味わわせたい。

本単元を通し、校区のよさを児童たちが具体的に表現できるようになることや、校区という自分たちにいちばん身近な社会コミュニティーへ主体的に関わろうとする資質の素地を育むことを期待したい。

6 単元構想図 21 時間完了 (本時 19/21)

【「5分」って何の数字? 富士見小学校の「消火」の道具を探そう】①② ※1, 2, 3

- ・僕たちは、避難訓練のときに避難を終えるまで「5分」かかるんだね。
- ・火事が起きて5分後には、周りの部屋や別の階まで火が広がるんだね。こんなに早く広がるなんて知らなかった。
- ・富士見小学校で火事が起きて大丈夫なのかな。富士見小学校の安全について調べたいな。



- ・「消火器」と「消火栓」は、全部の階にもあることに気がついたよ。
- ・避難訓練のときに下げる「防火シャッター」も火事るときに使うね。
- ・職員室にある「受信機」は、どこで火事が起きたのかがわかる機械なんだね。

富士見小学校には、「消火」の道具がたくさんあるから安全だね。

【富士見校区の「消火」の道具を探してみたいな】③探検④話し合い ※4, 5

- ・学校に来る途中に「消火栓」を見つけたことがあるよ。
- ・「消火」って書いてあるふたは一体何だろうって気になっていたんだ。



- ・消防車や水の絵がかいてあるから、火事るときに使うと思うよ。
- ・「消火器」はかんたんに開くけど、「消火栓」は開かないね。使い方も難しそうだけど、どうやって使うのかな。

富士見小学校や富士見校区にたくさんの「消火」道具があるのは、みんなを火事から守るためなんだね。これだけあれば安心できそうだよ。

【「消火」のひみつをもっと知りたいな】⑤⑥一人調べ⑦話し合い ※6, 7

【富士見校区にある「消火」のひみつ】

- ・道路にある「消火栓」は、棒のような道具をつなげて使うんだね。たくさんの水が勢いよく出ることがわかったよ。
- ・「消火器」の中身は、火を消すための薬のような粉が入っているんだって。
- ・公園にあった「防火水そう」の中には、予想通りたくさんの水が入っているこ

【富士見校区にない「消火」のひみつ】

- ・消防車にもいろいろな種類があることがわかったよ。水をためるタンクがあるんだって。
- ・消防車には、防火服やヘルメットなどが積まれているんだね。長く伸びるはしごまであるなんて便利だね。
- ・消防士は、たくさんのトレーニングをしていることがわかったよ。

僕たちが知らなかった「消火」のひみつがわかったよ。

【消防署に行ってみよう】⑧⑨見学⑩話し合い ※8, 9, 10

- ・たくさんトレーニングをしているのは、火事が起こったときに重たい荷物を運んだり、早く動いたりすることができるようにするためなんだ。
- ・消防士が使う防火服は、少しの間なら熱い火にもたえられるそうだよ。じょうぶでやぶれにくいんだって。
- ・消防署には、休む部屋やご飯を食べる部屋もあって、家ようだったよ。

【大清水出張所の消防士の話】

豊橋市では、1年間に100件くらいの火事が起きています。豊橋だけで8カ所の消防署や出張所があり、中消防署を中心にみんなで協力をしながら活動しています。富士見校区ではほとんど火事は起きていませんが、たくさん家があるから火事の危険はあります。火事はいつでも起こるかわからないので、私たち消防士は、24時間交代しながら仕事をしています。私たちは、いつでも火事に備えて準備をしていますが、他の地域で火事が起きていたら、富士見校区にはすぐに行くことができません。そのときは、地域の人たちが行っている「消防団」の力がとても大切です。



消防士さんは、火事が起きたときのためにいつでも準備をしているんだね。消防署の人たちは、協力しながら活動しているんだね。

※教師支援

※1: 富士見小学校の火事に対する備えに意識を向けさせるために、火事によって火が燃え広がる映像を見せ、火事が起きたらすぐに消火する必要があることを感じさせる。

※2: 意欲的に「消火」の道具探しに取り組めるようにするために、児童のつぶやきから「消火」の道具が自分たちの身近にあることに気づかせる。

※3: 校内の消火設備や設置場所に気づきやすくするために、記号によって消火設備の設置場所が示された校内地図を配付する。

※4: 富士見校区には多くの消火設備があることに気づくために、教室に校区地図を掲示して消火設備を見つけた場所にシールを貼るようにする。

※5: 道路や校内に多くの消火設備があるのは、火事に備えるためであることを理解できるようにするために、消火設備の位置や多い利点、使用するときに考えさせる。

※6: 「消火」の秘密についての疑問を抱けるように、使い方や使う人だけでなく、消防車や消防士など授業に出てきていないものも一人調べの選択肢として加え、着眼点を広めるようにする。

※7: 一人調べの際に目的をもって調べられるように、朱書きや対話の中で個々の調べたい内容を明確にしたり、意見の近い児童と協働しながら調べられるように促したりする。

※8: 服やヘルメット、消防署などの新たな秘密を探し、その特徴に気づけるように、普通の服やヘルメットとの違いに着目させたり、どんな機械や部屋があるのか意識しながら見学させたりする。

※9: 消防署と出張所が協力し合っていることに気づかせるために、電話から出動命令までの模擬体験をしたり、複数名ではしご車による救助を行っている姿を見せたりするようにする。

【 消防士が大切だと言っていた消防団って何だろう 】⑪※11, 12

- ・消防団は、それぞれの校区の人がボランティアでやっているんだね。
- ・豊橋の消防士の数は330人くらいだけど、消防団の人の数は1200人もいるんだね。
- ・消防団は、火事以外にも台風や地震のときにも出動することがわかったよ。

消防団は、校区の人たちがやっていて、火事や台風のときに出動するんだね。

【 富士見校区の消防団は、どんなことをしているのかな 】⑫見学⑬話し合い ※13, 14, 15

- ・放水の様子を見せてもらったよ。素早く行動していてかっこいいと思ったよ。
- ・消防団の人たちは、息がピッタリでかけ声も大きかったよ。
- ・重たい道具を運んだり、息を合わせたりするのは大変そうだね。
- ・消防団の車にも、消防車のようにいろいろな道具が乗っていることがわかったよ。

富士見校区の消防団は、素早く行動したり掛け声を出したりしてかっこいいな

【 目指せ子つばめ消防団！～S-1 グランプリ～ 】⑭⑮体験⑯話し合い ※16, 17

- ・使う前は簡単にできると思っていたけど、意外と難しいね。
- ・なかなか的に当たらないよ。これだともし火事が起きたら大変だ。
- ・今は時間がかかるけど、何回も訓練すれば消防団のように早くなるかな。



- ・訓練していくうちに、少しずつタイムが短くなったよ。
- ・早くできるようになったのは嬉しいけど、休み時間が減るのは正直嫌だな。

たくさん訓練するのは大変だけど、早く火を消すためには大切なことだね。

【 山口さんに消防団のヒミツを教えてくださいな 】⑰聞き取り⑱話し合い ※18

【 富士見消防団班長の山口さんへの質問と話 】

- ・富士見には17人の消防団員がいて、仕事を止めて火事の場所に向かうそうだよ。
- ・放水が上手にできるのは、毎週土日に坪之谷公園で訓練をしているからなんだって。身体を休めたいときも訓練に行かないといけなそうだよ。



私たちは、富士見校区の安全を守るために毎月校区の見回りをしています。9月～11月には、火事に備えた放水の訓練もしています。体を休めたいと思うこともよくありますが、校区のために消防団の仲間たちと協力しながら活動しています。私は14年間消防団を続けていて、これまでに400回以上も火事に備えた放水の訓練をしてきました。14年間の富士見校区への出動は1回です。富士見校区の安全を守ることができたときの嬉しさや消防団の仲間たちと一緒に活動する楽しさにとってもやりがいを感じます。

山口さんたちは、たくさんの訓練や見回りをしてくれているんだね。

【 14年間で1回だけなら、訓練を減らしてもいいんじゃないかな 】⑲話し合い(本時)

- ・訓練は大変だし、自由な時間が減るから減らしてもいいと思うよ。
- ・消防団のおかげで火事が少なくなっていると思うから、減らさない方がいいよ。



- ・富士見校区のことを考えると、火事は1回でも多いんだね。
- ・山口さんたちは、富士見校区で火事が起こらないことを願っているんだね。

富士見校区の安全を真剣に考えて訓練している山口さんや消防団ってすごいな。

【 富士見校区の消防団や安全のことを周りにも広めていきたいな 】⑳㉑話し合い

- ・富士見小学校のみんなに消防団のことや消防士さんのことを教えてあげたいな。
- ・僕たちも火事にならないように、安全に気をつけて生活していきたいな。

僕たちも安全に気をつけながら生活していきたいな
消防団のように富士見校区を守っていきたいな

※10: 消防士から消防団へ目を向けられるようにするために、消防士がすぐに来られないときは、消防団が消火活動をする話を話していただくようにする。

※11: 消防団の概要や協力体制について理解できるようにするために、必要な内容を掲載した自作資料を用意したり、市役所のHPのチラシを提示したりする。

※12: 消防士と消防団員を混同しないようにするために、違いを明確にしながら話し合いをすすめていく。

※13: 消防団の人たちや活動内容などへの関心を高めるために、実際に富士見校区の消防団をゲストティーチャーとして招聘し、放水の様子や消防車を見せていただく。

※14: 消防団の訓練が、火事に備えたものであることに気づけるようにするために、消防団員の素早さや正確さに着目させる。

※15: 消防団の活動が自分たちの生活に関わっていることを感じさせるために、消防団は誰のために訓練しているのか考えさせたり、これまでに起きた身近な事例を取り上げたりする。

※16: 訓練の大切さや必要性に気づけるようにするために、実際に水消火器を使った訓練を体験させ、着衣から消火までの大変さや、コントロールの難しさを感じさせる。

※17: 訓練することで技術やタイムが向上することを実感できるようにするために、教室内に経過タイムを記入したグラフを掲示する。

※18: 消防団について多面的に理解できるようにするために、消防団の活動だけでなく、大変さややりがいについても話していただくようにする。

